

現地報告

テッサロニキ市の創作集団・マンガテラーズについて

The Report for Mangatellers in Thessaloniki

福田 耕佑 FUKUDA Kosuke

京都大学大学院文学研究科博士課程

本稿執筆者は 2016 年夏季にギリシアのテッサロニキ市に滞在した。その滞在の中で、ラファエル・ヴツィディスとカリオフィリス・ハツォポロスらを中心に活動しているマンガ作家集団マンガテラーズと出会い¹、インタビューを行う機会を得た。執筆者は主に 19 世紀から 20 世紀のギリシア文学を専攻しており、執筆者がテッサロニキ市で見たものもまた現代のギリシア文学の一形態足りうと判断し、取材したものをここに紹介する次第である。本稿では、特にこのマンガテラーズについて、彼らの作品『R.u.N. REMEMBER UR NTURE』²を中心に紹介したい。この作品を創作したマンガテラーズは 2008 年にギリシア・テッサロニキ市で創作活動を開始した。本作の出版以外にも、インターネット上に英語で自分たちの作品を掲載しており、特に 2014 年には在ギリシア日本大使館やテッサロニキ市の支援を受けながら、テッサロニキの歴史や観光名所を紹介する作品を創作するなど³、精力的な活動を行っている⁴。彼らは自分達の創作を通して、日本のマンガの形式とギリシアの精神 (Greek mentality) を組み合わせ、単なる日本のマンガの模倣に終始せず、独自の表現を追求していることを述べている (Mangatellers 2014: 6)。ここでは『R.u.N. REMEMBER UR NTURE』の第一巻を一例に、ギリシアにおける日本のマンガ創作について紹介したい。

『R.u.N. REMEMBER UR NTURE』の舞台は現代の東京である。物語は主人公ジーン・リアム (Jean Liam) が高校の初日を迎える日から始まる。主人公はパルクール (Parkour) を愛好しており⁵、このパルクールを通して心身を共に鍛えあう

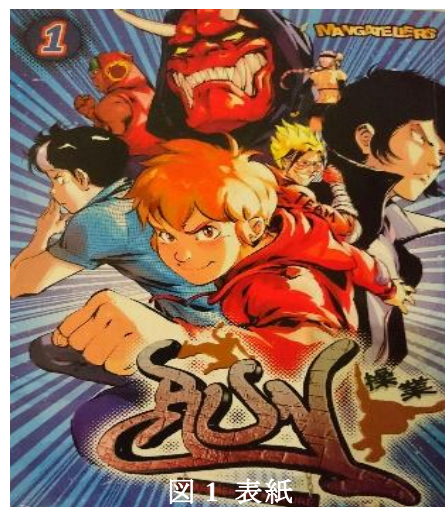


図1 表紙

¹ Ραφαήλ Βουτσίδης (1985 -), Καρυοφύλλης Χατζόπουρος (1986 -) は共にテッサロニキ出身。主にマンガテラーズでのストーリー構成や全般的な企画を担当している。

² Mangatellers (2015) *R.u.N. REMEMBER UR NTURE Vol.1*, Θεσσαλονίκη: Kickstarter campaign.

³ Mangatellers (2014) *Τότε και τώρα πάντα Θεσσαλονίκη*, Θεσσαλονίκη: Θεσσαλονίκη Ευρωπαϊκή Πρωτεύουσα Νεολαίας. (前半にギリシア語、後半に英語版が収録)

⁴ 他にもテッサロニキ市で日本のアニメや文化に関するイベントを開催している。また彼らの創作作品はインターネット上に全て公開されている。http://www.mangatellers.gr/ (2016 年 8 月 21 日最終閲覧)

⁵ パルクールは主に野外での移動動作の中で、その動作を鍛錬し洗練させることで人間本来の身体能力を引き出し高めようとする運動である

仲間が集まり、チーム・忍者 (Team Ninja) という集団との競争や戦いを経て主人公達が人格的に成長していく構成を取っている。アメリカンコミックの場合、主人公が圧倒的な力を持ったスーパーヒーローである場合が多いが、ハツオプロスは、主人公を普通の高校生に定め、仲間を増やしながらスポーツや共闘を通じた成長する主人公像を描くというコンセプトを日本の少年マンガから得たと述べていた⁶。確かに第四チャプターまでは世界観と主要人物の描写が中心であり、一チャプターずつ主人公の味方となる人物が登場し、第五チャプター以降一連の連続した物語が始まっていくという構成が取られている。

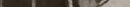
また技術的な面に関しても紹介したい。一点目として、図2に見られるように、登場人物たちのセリフはもともと英語で書かれている。しかし音喩やオノマトペは日本語のものがそのまま日本語が使用されている。確かに英語及びギリシア語で日本語の音喩やオノマトペを再現することは困難な場合が多い。だがハツオプロスによれば、あえて少年マンガ感を演出するために日本語の文字を採用している⁷。また登場人物の



☒ 2 Mangatellers 2015: 64

表情やコマ割、そして効果線の使い方まで日本のマンガの技術が採用されている。この点は図3のテッサロニキ市を扱った『テッサロニキ 時を超えて』に見られるように、ギリシア語で台詞を入れながら、古代のギリシアを扱っている場面に関しても同様であり、彼らの作品において一貫して採用されている。

マンガテラーズの活動と作品を通して、
彼らの目指している日本のマンガ技術と
ギリシアの精神性の調和が達成され、ギ
リシア文学の中で優れた作品の創作と新
たなジャンルが確立されていくことに期
待したい。



☒ 3 Mangatellers 2014: 17

(ふくだ こうすけ 京都大学大学院文学研究科)

⁶ 2016年8月20日テッサロニキ市 Cosmic Realism にて。http://www.cosmicrealms.gr/ (2016年8月21日最終閲覧)

7 同上